
pokki-の物語

pokki-

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

p o k k i - の物語

【Nコード】

N 2 1 4 5 D

【作者名】

p o k k i -

【あらすじ】

僕は追い続けるよ、君のため、僕のため。君を追い続ける事が、僕が君にできるたった一つの事だから。

FILE：0 旅立ち

僕は旅立つ　今この時　君に出逢う　その時まで

僕は今、ただっ広い、草原の中にいる。見渡す限り草しか見えな
い。遠くの方に、僕のヅラが小さく見える。

今、僕の頭を隠す物は何もない。昼の暖かい太陽の光を浴びて、
目映いばかりに光っている。ヅラがないとやっぱり暑い。でも、暑
い理由はこれ一つではない。走って居るからだ。遥か遠くに見える、
自分のヅラに向かって。

どれくらい走ったのかわからない。何分なのか、何時間なのか、
はたまた何日なのかも。とりあえず走っている。あのヅラがないと
僕は生きていけない。

「あのヅラ高かったのに・・・。」

・・・つい、本音が漏れた。はつきり言って、本当はあのヅラがな
くても、生きていける。特別愛着があった訳でも、ヅラが他にない
訳でもない。ただ、高かったから無くすと悔しいのだ。あのヅラは、
百均で買ったカラフルなアフロのヅラと違い、ちゃんとヅラ屋で買
った、数少ないヅラなのだ。

そんな事を言って（考えて？）いる暇があるなら、ヅラを追いか
ける事に集中しようと思い、ヅラを見ると、さっきより遥か遠くに
ヅラが見える。僕はあわてて、ヅラに少しでも近づくために、全速
力で走り出した。

今思うと、僕がヅラを飛ばされた時は、確か街のと真ん中だった
筈だが、現在、僕は草原のと真ん中にいる。どうしてかこれまでの
出来事を、思い出して見ようと思ったが、またヅラが僕から離れて
行ってしまいかもしれないので、思い出すのはヅラを捕まえてから
の楽しみにとっておく事にする。

そんな事を考えていたら、僕の視界からヅラが消えた。

それでも僕は走り続ける。君のため、僕のため。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2145d/>

pokki-の物語

2010年11月11日07時55分発行